

稲毛海浜公園自然観察会

虫と友達になろう！

井上 隆夫（佐倉市）

日 時：2023年9月9日（土）10:00～12:00

参加者：19名（大人8名、子ども11名）

担当指導員：伊藤、藤田、田島、井上

昨日の台風13号は過ぎ去ったが、早朝までの雨によって公園内の林も草原も濡れていた。受付は公園内の「稲毛民間航空記念館」前で行った。アシナガバチの小さな巣が後方の建物の軒下にあったので蜂に気を付けること、滑りやすい敷石に気を付けるよう注意をし、2つのグループになって観察を開始した。公園内にはウバメガシの植栽があり、そこにたくさんのジョロウグモが巣を張っていた。ジョロウグモは、これからたくさんの虫を食べてどんどん大きくなり、卵を産んで冬には死んでいくことを説明した。

参加者の一人がクモの糸に触れたとたん、その振動をとらえてメスグモがすぐに反応し、飛びかかろうとしたので、子どもたちから「おお！」という声が上がった。メスのうしろのオスに気がついた子どもたちもいて、大きさのちがいにびっくりしていた。巣の張り方等を説明したあとは、マテバシイの木に向かった。

台風の後でドングリがたくさん落ちていた。枝先の小さな緑色の実が大きくなるまで、2年かかることやマテバシイの実は他のドングリと異なり渋みが少ないことを紹介した。数日前までにぎやかだったセミの声はほとんど聞こえず、秋の虫の音が聞こえてくる。

「ピクニック広場」から「芝生広場」を回り、それぞれ捕虫網で虫を追いかけた。ウスバキトンボがたくさん飛んでいたが、なかなか網に入らず夢中でトンボとりをする子どもたちが印象的であった。アジアイトトンボ、シジミチョウ、シオカラトンボ等も見られた。

茶室の「海星庵」にある池に寄ってみると、たくさんのコイが近寄ってきた。ショウジョウトンボやウスバキトンボ、シオカラトンボが池の上を周回していたが、残念ながら子どもたちの網の中に入るものはいなかった。

「野外音楽堂」の前には、アオギリの実がたくさんなっていて、5枚の果皮にそれぞれ種子を付けているのが興味深かった。

ゴールの「思い出の森」の草原では、20分間の昆虫採集時間をとった。それぞれの親子が虫採りに集中して、あっという間に時間が過ぎていった。それぞれが採集したものをプラカップに入れて、同定と食べ物による分類を行った。生産者（植物）、第1次消費者（草食動物）、第2次消費者（肉食動物）、第3次消費者、分解者の食物連鎖サイクルを確認することができた。

子どもたちが採集した虫たちは以下の通りである。

- モンキチョウ・ショウリョウバッタ・マダラバッタ・ウスイロササキリ・コカマキリ
- ・セアカヒラタゴミムシ・ウスバキトンボ・シオカラトンボ・ショウジョウトンボ
- ・アジアイトトンボ・アブラゼミ（死骸）・ジョロウグモ・ワスレナグモ

子どもたちの感想

- チョウチョウとセミがとれてよかった。
- ゴミムシ、シオカラトンボ、シジミチョウがとれて楽しかった。
- ショウジョウトンボがとれて、うれしかった。

保護者の感想

- 毎週虫取りに行っているが、ここにはいろいろな虫がいるので、びっくりした。
- 近くの公園よりたくさんの種類がいたのでうれしかった。
- 意外とたくさんの種類がとれたので良かった。

